ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町
町長　三　村　裕　史

「第４９回ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は、江戸時代末期から人々の間で受け継がれてきた筆づくりの技術が、現在も息づいているまちです。書道用筆はもちろんのこと、その高い技術力を生かして作られる化粧筆や画筆は、国内外で高い評価をいただいており、伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」として、長年その文化を継承し、栄えてきました。

本町で開催されている伝統行事「筆まつり」は毎年秋分の日に開催されています。昭和初期から回を重ね今年でちょうど９０回を迎えました。これから先も熊野町の伝統を守り、多くの方に熊野町の魅力を知っていただけるよう取り組んでまいります。

さて、ふれあい書道展はこの度４９回目を迎えました。全国４７都道府県のほか国外から、最年少は２歳から最高齢は１１１歳までの幅広い書道愛好家の方々による、１８，３９３点に及ぶたくさんの応募をいただきました。このことは筆の都熊野町として喜ばしいことであり、筆を持ち、書に親しむ楽しさを多くの方に味わっていただくことで、筆文化の振興と筆を通じた交流が深まっていることを実感しています。

書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいという方も次回以降、是非ご参加いただき書を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

第４９回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会
委員長　時　光　良　造

平成１１年の開催以来、書道愛好家の皆様方に支えられて「第４９回ふれあい書道展」を開催できましたことに対し、深く感謝を申し上げます。

今回は４７都道府県と海外の１，４６５団体から夏の展覧会では過去最高の１８，３９３点もの力作が届きました。本書道展にふさわしく、２歳から１１１歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただきました。また、今回も台湾から多くの作品が届き、海外においても筆を持ち、書に親しんでいる様子を伺うことができました。

最終審査は審査長として、今回も元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼しまして、特別賞４０点の作品を厳正に、丁寧に選んでいただきました。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。また、筆を持つ楽しさを末永く記念にしていただこうと出品者全員に作品画像入りの賞状を贈呈して皆様方から喜ばれています。

「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、筆の都熊野町の町民会館ロビーにおいて、８月１０日から８月１８日までのお盆期間中、展覧会を開催いたしました。

筆を持ち、作品を創作することで、日本の伝統文化である書道に親しみ、たくさんの仲間との交流、活動が広がることを願っております。

次回は記念の５０回となります。５０回記念賞などを用意して、皆様方からたくさんの作品をお待ちしています。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。